

## 仕事が楽しい人 F i l e . 3 4 : 作田文子さん (人事部)



### ◆人事とは、社員の幸せを守る門番である

今回、ご紹介する「仕事が楽しい人」は、南米ペルーのリマに本社を構える、トヨタ系ディーラーの人事部で働く、作田文子さんです。

作田さんが、ペルーに渡ったのは、今から5年前の2008年。32歳の時でした。

作田さんは、幼少のころからペルーに憧れ、ペルーに移住する夢を抱き続けていました。テレビアニメの「太陽の子エステバン」を見たのがきっかけでした。

作田さんが、この夢を叶えるまでの経緯は、

海外で暮らすドットコム (<http://www.kaigaidekurasu.com/archives/90>)

に詳しく解説されているので、こちらをご参照ください。

人事の仕事は、

人材の採用から配属、社員教育の企画及び実施、そして、労務管理と多岐にわたります。

作田さんは、これらの仕事の中でも、「雇用を生み出している」と実感できた時に、やりがいを感じるといいます。

それは、次のようなケースです。

毎朝実施している始業5分前のミーティングに、たびたび遅れてくる社員がいました。

遅刻の理由を尋ねると、

「メカニックに関する記事を、声を出して読むのが嫌なんです」

との答えが返ってきました。

彼がなぜ文書を読みたがらないのか。そのわけは明快で、彼には学歴がなく、文盲に近い状態だったからです。

この理由を理解した職場の上司や同僚は、

「記事を読むのに時間がかかってもいいし、わからない言葉は教えてあげるから、ミーティングに出なよ」と粘り強く説得しました。

彼は、職場の仲間の励ましに応じ、ミーティングに参加するようになったのです。

そもそも彼は、洗車係りとして外注先で働いていました。

ペルーでは、中学校を卒業していないと、運転免許を取得できません。

従って、学歴のなかった彼は、運転免許も持っていないので、自動車を動かすこともできず、希望するメカニックの仕事に就けませんでした。

ところが、ある時に、作田さんが務める企業の経営政策の一環として、外注業務の内製化が進められ、彼は、正社員として迎えられました。

すると彼を取り巻く状況が一変しました。

収入も安定し、福利厚生も手厚く施されます。

そこで、彼は、中学校に入学後、専門学校を卒業し、

晴れて、メカニックの仕事に就くことができました。

30歳を迎えた今、結婚もし、子どもにも恵まれ、幸せな家庭を築いているそうです。

作田さんは、

安定した仕事に就けることで、一定の収入を得られ、幸せな家庭を築ける。

要するに、幸せの出発点は、仕事に就くことにある。

作田さんは、この実例から、

「人事とは、社員の幸せを守る門番である」

ことを、私に教えてくれたのでしょう。

#### ◆作田さんが大切にするキーワード

「頑張った人が報われる社会を創る」

不器用でも地道に人のためになることを続けている人がいます。

こういう人たちが報われる社会を創るのが、作田さんの目標です。

#### ◆作田さんのパワー○○

「必ず立って挨拶をする」

人事部には人が寄り付きにくい雰囲気があると、以前、言われていました。

そこで、人事部の部屋を訪れる社員には、作田さんから笑顔で挨拶をし、

どんなことでも話しやすい雰囲気を作っています。

◆作田さんのコツコツ

「早起き」

シフト制のため、社員のみなさんの出勤時間が何段階かに分かれています。早出のシフトの人たちと一緒に仕事を始めたいので、毎日、早出シフトの時刻に出勤しています。

◆平堀が感じ取った、作田さんの雇用創出に向けた思いの原点

作田さんは学生時代まで、ペルーの遺跡に関心が高かったため、考古学に関わるような仕事に就きたいと考えていました。

しかしながら、作田さんがはじめて憧れのペルーを訪れた時に、この思いが、吹き飛んでしまいました。

それは、世界遺産を不法占拠して生活し、遺跡を荒らしている現地の人たちを目の当たりにしたからでした。

この光景を見て、作田さんは、

「人が生きていくためには、しょうがない」

「人が生きていける社会になって、はじめて、遺跡の保護ができる」

と思ったそうです。

旅行を終えて大学へ戻ると、勉強の方向を転換し、現代政治を学びました。

遺跡を保護できる豊かな社会を創るための方策を学ぶために。

試行錯誤の結果、作田さんが導き出した答えは、

「雇用の創出こそが、豊かな社会を創り出す出発点」

でした。

まさに、作田さんは、

「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」

の格言で言われている真理に行き着いたのでしょう。

作田さん曰く、

人事とは、ムチとアメを的確に使い分けて、社員と対応しなければならない。

各種制度をキチッと整えて、この制度に則って組織が運営されているかどうかを監視し指導しなければならない。

人は生来弱く、甘い風土になると、簡単に易きに流されてしまう。

その結果、組織の統制が乱れ業績が低迷すれば、雇用を守れなくなる。

“アメとムチ”ではなく、“ムチとアメ”と表現した作田さんの言い回しに、私は、深い意味があると感じました。

作田さんが、ペルーに関心を持ったきっかけとなったアニメの「太陽の子エステバン」のあらすじをウィキペディアで調べると、16世紀、マゼラン隊の世界一周から10年後。スペインのバルセロナで育った少年エステバンは、10年前に彼を難破船から救った航海士メンドーサの誘いで、その時行方不明になった父の手掛かりでもある黄金都市を探しに新大陸（現・中南米）へ旅立つ。自分と同じペンダントを持つインカの少女シアやムー大陸文明の英知を受け継ぐ少年タオと出会い、共に旅を続けるが、彼らは黄金を狙って先住民を蹂躪するスペイン人や、黄金都市の真の宝であるムーの「大いなる遺産」を狙うオルメカ人の陰謀と闘うことになる。と解説されています。

このアニメを見て、インカやムー大陸を想像し、胸をときめかしていた幼少のころの作田さんは、今、先住民を蹂躪するスペイン人や遺産を狙うオルメカ人と戦ったエステバンのように、雇用を守るためにムチとアメを使いわけ、人事の仕事をしているのだなど、アニメのストーリーと作田さんの仕事ぶりを重ね合わせてしまいました。

#### ◆作田さんのプロフィール

職業：人事部 部長

所属：ペルー ミツイアウトモトリス(トヨタ)

URL：[www.mitsuiautomotriz.com](http://www.mitsuiautomotriz.com)

#### ◆に求められる能力

使命感：雇用の創出こそが幸せの出発点であると信じる思い

厳しさ：弱い人間を誤った方向に導かないための指導力

優しさ：頑張りはず報われると勇気づける温かい心

専門知識：目まぐるしく改定される法律に追随する知識

語学力：難しいことをわかりやすく説明するコミュニケーション力